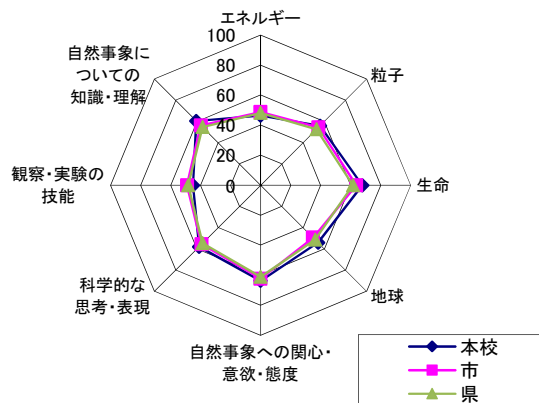


宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	46.4	48.8	48.1
	粒子	55.9	54.4	52.6
	生命	67.7	63.7	61.5
	地球	54.1	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	63.7	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	57.9	55.7	54.8
	観察・実験の技能	45.1	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	60.6	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。「音の性質」、「力の性質」に関する問題では、どちらも県平均を上回っている。</p> <p>●「光源から出た光の道筋を作図で表すことができる」に関する問題では、35.5%と県平均を16.5ポイント下回っている。また「スクリーンにできた像の大きさと向きについて考えることができる」に関する問題では、44.1%と、県平均を7.6ポイント下回っている。</p>	<p>・物理分野は、概念が難しくイメージしにくいので、実験や観察・映像の視聴などを通してイメージしやすくする工夫をしていく。</p> <p>・実験から得られた結果をもとに根拠をもって考察するなど、探究のプロセスに重点を置き、「なぜそうなるのか」を考える習慣が身に付く授業を展開する。</p>
粒子	<p>○県の数値と比較して平均正答率は上回っている。特に「水溶液の質量パーセント濃度を求めることができる」に関する問題では55.9%と、県平均と比較して6.7ポイント上回っている。</p> <p>●「体積を求め、密度を求めることで金属を特定することができる」に関する問題では、県の数値と比較しても平均正答率が下回っていることから、公式を利用した計算問題が課題であると考えられる。</p>	<p>・学習した知識を活用して計算するなどの応用問題につまづきが見られることから、公式を利用した計算などの練習問題を多く扱い、計算方法に慣れて身に付くようにしていく。</p> <p>・実験を多くとり入れ、実際に自然事象を体験することで、単に暗記する理解ではなく、実感を伴った理解ができる授業を展開する。</p>
生命	<p>○県、市いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「軟体動物を指摘できる」に関する問題では54.8%と、県平均と比較して19.9ポイント上回っている。</p> <p>●「マツの花粉の空気袋の働きを推測し、説明することができる」では、県の数値と比較しても平均正答率が5.8%下回っている。</p>	<p>・植物は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験や観察を通して、実感をともなう授業をしていく。</p> <p>・上位層と下位層の正答率に開きがあることから、机間指導や生徒同士の学び合い活動(グループ活動)などを通して、個別に支援をしていく。</p>
地球	<p>○県、市いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「火山岩のでき方を説明することができる」に関する問題では77.5%と、県平均と比較して7.6ポイント上回っている。</p> <p>●「火山と地震」に関する問題では、上位層と下位層の平均正答率の差に二極化の傾向が見られる。</p>	<p>・この分野は、他の分野に比べて体験や観察などが十分にできないことも多い。したがって「火山と地震」の分野のように、イメージが湧きにくい自然事象もある。モデルを使って考えるなど、目に見えないことを具体的にイメージできるような授業を展開する必要があると考える。</p>